

技術家庭科家庭分野学習指導案

指導者 冨永 暁菜

- 1 日 時 令和5年11月29日(水) 第4校時(11:50~12:40)
- 2 学年・組 中学校第3学年1組 計19名(男子8名, 女子11名)
- 3 場 所 中学校家庭科教室
- 4 単元名 エシカルアクションへの第一歩 –消費者行動が社会と環境に与える影響–
- 5 単元について

誰一人残さない (leave no one behind)」世界の持続可能な開発目標取組として2030年までに目標を達成すべき17の目標を掲げたSDGs目標達成まであと7年となった。目標に向け企業・学校での取組がある一方でその達成とは裏腹に社会情勢の悪化や劣悪な環境で労働させられている児童*や教育を受けられない児童がまだ世界には多くいる。またこの世界のどこかで貧困で苦しみ、過酷な労働環境で働かされている児童が生産した商品を、私たち消費者は「安いから」という理由で何も考えずに購入し使用している現状がある。この中学3年生は7年後には大学進学以外の生徒も含み、社会に出る時代になっているだろう。彼らが社会人になった時に経済を回す担い手としてどのような視点で社会・環境を見ているだろうか。その視野を広げるために、「C. 消費生活、環境」の範囲で小学校での学習を踏まえ、中学校で指導する「知識及び技能」が高等学校の学習に発展していくものと意識して、確実に定着できるようにすることを目指す。SDGs達成のため国連が呼びかけている『「行動の10年」に突入した今、私たち一人ひとりにできることをしっかりと考え、一歩踏み出す姿勢が求められている』ことは切実な問題である。持続可能な社会につながっていくことと、家庭科の見方・考え方で生活の中での快適さや安全さも保つことの双方が考えられる授業を展開していく。

本学級の生徒の実態把握として、3学年(79人中69人回答)に「C. 消費生活・環境」の分野を学習する前に自身の消費生活を振り返る事前アンケートを行った。10の質問を各自タブレット端末で回答を得た。その中で、家庭で生活にかかるお金について具体的に話した経験があるかをきいたところ、約4割の生徒が「はい」と答えた。授業で金銭計画を取り扱う場面でどのような時に話をしたのか聞いたところ「スマホを買う時にどれくらいのお金が家庭でかかっているのか聞いた」や「家庭環境から、新しい習い事をするのに不安になったので、親の給与を聞いた」など、何かしら金銭が必要な場面になった時に親に生活に関わるお金について聞いたようだ。また、自分の消費行動が社会や環境に影響すると思うかという質問に対しては「はい」が約4割、「いいえ」が約6割の回答があった。「はい」と答えた人に例えばどのようなことが影響するかと聞くと「物を多く買いすぎると、使えずに捨てるようになって環境に悪い」「レジ袋をもらい環境破壊」「消費(税)関係で福祉に使われているのでは?」「ポイ捨て」「消費税の支払い」「経済が回る」「食べずに捨てる、食品ロスになる」「消費をすることで、ゴミになるものがあるから、環境に影響があると思う」「買った商品を作った人に利益がある」「消費活動により経済を回すことにつながると思う」などと答えた。商品を購入することは経済を回すことだと思っている生徒が多かった。しかし消費することでいつかゴミになって廃棄することになり、それが環境に負荷がかかると思っている生徒もいた。そのことから、「いいえ」と答えた約6割は消費行動が社会や環境への影響力があることについて意識が及んでいないと考えられる。

よって指導にあたっては、消費者行動が社会や環境に影響を与える現状を伝え、実際に私たちの消費行動と社会や環境の繋がりを意識させる授業を展開していくために、綿花(コットン)生産の現状を伝える。インドの貧しい地域で多く作られる綿花。その綿花で作られた綿で織られた下着を私たちの多く

は普段使用している。その綿花の生産は児童労働でなりたっている。また綿花生産での農薬使用量は農作物の中で最大と言われている。一方オーガニックの綿花生産では、化学物質を最小限におさえており、労働者の環境・安全についても配慮されている。また児童労働の禁止も守られている。生徒には私たちが何かを購入する時に、品質と価格に目が行きがちだが、その背景を考えて商品を選ぶことも大切だということを理解させたい。また、本時の授業から生徒は消費者の責任をもつことで自分や家族の消費行動を見直すきっかけになってほしい。エシカル消費について学んだ後、商品への価格や生産国などに疑問をもち、普段の買い物からその商品を使用すること、廃棄することまで社会や環境に配慮することを意欲的に行動（エシカルアクション）を起こせるきっかけ作りができるように授業を展開していきたい。

児童*…子どもの権利条約に基づき、ここでは18歳未満の全ての人と捉えています。

6 単元目標

- (1) 購入方法や支払い方法の特徴、計画的な金銭管理の必要性、売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応、消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解するとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。
- (2) 物資・サービスの購入、自立した消費者としての消費行動について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。
- (3) よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする事ができる。

7 指導計画（全7時間）

| 次 | 時 | 学習内容 |
|---|-----|---------------------------------|
| 1 | 1 | 自分や家族の消費生活を振り返る |
| | 2 | 多様な購入方法と支払い方法 |
| | 3 | 金銭管理 |
| | 4 | 物資・サービスの選択・購入 |
| | 5 | 売買契約の仕組みと消費者被害（消費生活センターの方の出前授業） |
| 2 | 6 | 消費者の権利と責任 |
| | 7～9 | 消費行動が社会と環境に与える影響（本時7／9） |

8 本時の目標

- 自分や家族の消費行動が環境や社会に及ぼす影響を様々な視点から考え自分のこととして長期にわたって考え実践してくための知識を身に付けることができる。【知識・技能】

9 学習の展開

| 学習活動と内容 | 指導上の留意点（◆評価） |
|---|---|
| <p>1. コットン（綿花）とは何かを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コットンのイメージや綿は何に使用されているのか考える。 ・肌着（オーガニックコットンを使用しているものとしていないもの）を見て、どのような違いがあるか比較する。 ・自分だったらどの肌着を選ぶか、意見を出す。 | <p>○ 実際に綿花を見せ、イメージを問う。肌着を3種類見せる。綿100%、オーガニックコットン使用綿100%、オーガニックコットン100%。それぞれの見た目・価格・生産国を比較できるようにする。</p> |
| <p>わたしたちの消費者行動が社会と環境に与える影響を理解する</p> | |
| <p>2. 3つの資料からコットン産業について知る。</p> <p>① 資料読み取り （コットン生産：労働環境、多量農薬散布問題、児童労働、水資源問題）</p> <p>② 読み取った資料の内容をグループ内で共有</p> <p>③ コットン産業の問題点を発表</p> <p>3. エシカル消費、オーガニックコットン、フェアトレード、GOTSの言葉の意味を理解する。</p> <p>4. 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに現状を知ったうえでどの肌着を選ぶのか意思決定をし、発表する。 ・消費者としてどういった視点を持つことができたかワークシートに記入する。 | <p>○ グループ活動にし、コットン生産の裏側でどんな人がどんな環境で働いているのかなど人や社会・環境に与える影響等資料から読み解かせる。</p> <p>○ 私たちが何かを購入する時に、品質と価格に目が行きがちだけれども、その背景を考えて商品を選ぶことも大切だということをおさえる。</p> <p>◆ わたしたちの消費行動が環境や社会に及ぼす影響を自覚し、長期にわたって考え実践していくための知識や態度を身に付けることができる。【知識・技能】</p> |

10 授業の分析

今回の授業では、3つの資料を用意して、グループの中で一人一人違う資料を読み解いた。絵本を引用した簡単な資料や表や文章量の多い難易度に違いがある資料を用意し、ジグソー法で資料を共有させた。与えられた資料によって生徒が読み込む時間配分が異なり、グループによって共有の時間の差が生まれた。今回のやり方は短時間で資料を読み込み理解するのは効果的ではあったが、グループで読み込む時間の差が生まれたため、グループごとに同じ資料を用いて、そこから全体共有した方が効率的であったのではないかと思う。現在コットン（綿花）産業でオーガニック製品が使用されている商品が少なく、コットン100%に比べてオーガニック100%は金額が高い。その現状から生徒は「授業ではオーガニック製品の肌着を最終的には選んだものの、実際にオーガニック製品を購入することについては高いから買えない」という意見もあった。また、生徒はオーガニックの良さは理解できているものの実際購入の際に選ぶというのは難しいと葛藤しているようだった。今回の授業で、今は実行できなくても未来の私への意識づけはできたと思う。周りの大人や友達に話すこともエシカルアクションに繋がると考える。これからも中学生に「今できるエシカル消費」は何かということと一緒に考えられる授業を模索していきたい。